

真正面から向き合えば道が拓けると信じて

小川賀代 (日本女子大学理学部数物科学科 准教授)

仕事の内容とやりがい

所属している数物科学科は数学と物理と情報の融合学科で、私は、物理学、光学、情報科学を中心に教えています。(1年を通して週4日担当授業があります。私立大学の先生は授業数が多いのです!) また、研究室では、学部4年～修士2年の学生、研究生が約10人おり、毎日、夜遅くまで一緒に研究に励んでおります。現在の研究テーマは、反強誘電性液晶を用いた超高速液晶空間光変調器の開発と情報システム(eポートフォリオシステム、適応型eラーニングシステム)の開発を行っています。研究が進むにつれて、学生も成長していく姿を見ることができ、これこそが、この仕事の醍醐味だと感じています。

仕事と生活のバランス

これまで、女性研究者支援のプロジェクトにおいて、サポートする仕事に携わってきましたが、現在は、1歳の男の子の育児と教育・研究・社会活動(学会活動など)との両立が始まり、サポートされる側になりました。当事者になって、本当の意味で色々な大変さを実感しています。子供は学内のナースリーで預かってもらい、週2日は義母にお迎えをお願いして、何とか仕事をこなしています。ドタバタな毎日ではありますが、女子学生たちにも、いざれ訪れる仕事と育児の両立の大変さと楽しさを伝えることになると思い、ありのままの姿を見せています。まだまだ、両立は始まったばかりでこれからいくつもの壁があると思いますが、多くのロールモデルが超えてきた壁だと思って、一つずつ超えて行ければと思っています。

進路決定のきっかけ

高校の物理の先生が大変熱心に授業を行ってくれ、小さい疑問にも丁寧に対応してくれたことから、物理の魅力に惹かれていき、大学で物理を勉強したいと思うようになりました。この頃、その先生から朝永振一郎氏の「光子の裁判」を紹介してもらいました。光の不思議な世界に触れ、光学に関心を持ったことも、理工系に進学を決めた理由の一つです。今の職業に就ききっかけは、大学3年生の学園祭の自由研究でホログラフィを行ったことと、取り組むきっかけを作ってくれた恩師との出会いがあったから他なりません。これ通して、思考錯誤しながら実験を進めていく苦悩と喜び、それを分かち合う仲間との存在の素晴らしさを教えてもらいました。更に恩師からは、一歩も引かない、真正面から向き合う姿勢を学びました。

進路選択に対してのメッセージ

どの分野の仕事でも必要とされるのは、授業の科目名のように明確ではなく、様々な分野の融合された知識や考え方です。1つの現象を紐解いていく過程、1つのシステムを作り上げていく過程など、1つのことと真正面から向き合うことで、多くの知識や考え方が学べます。進路選択では、成績や偏差値のような指標に惑わされず、自分が関心の持てる分野に進んでください。でも、関心が持てたからといって、壁が無いわけではありません。この壁と向き合い越えていくこと(=真正面から向き合うこと)で、もっと大きく自分を成長させることができ、世界を広げていくことができると思います。

<小川賀代(おがわかよ)プロフィール>

- 1989年 静岡県立浜松北高等学校卒業
- 1993年 日本女子大学家政学部家政理学科1部物理系 卒業
- 1995年 早稲田大学大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻修士課程修了
- 1999年 早稲田大学大学院理工学研究科物理学及び応用物理学専攻博士課程修満期退学
- 1999年 早稲田大学理工学部応用物理学科助手
- 2001年 日本女子大学理学部数物科学科助手
- 2005年 日本女子大学理学部数物科学科専任講師
- 2008年 日本女子大学理学部数物科学科准教授

